

ひがし

通算第 112 号
2025.9.15 No.28

第49 回人権を考える

講演のタベ

7月28日に文化センターで「人権を考える講演のタベ」が開催されました。講師は黒川みどりさん(静岡大学名誉教授)で演題は「近代の歴史をとおして考える今日の部落問題」でした。たくさんの内容を話してくださいましたが、私が印象に残ったお話を紹介します。

なぜ解放令で差別が助長されたのか
明治になって出された解放令で、これまでの身分制度はなくなるはずでした。

しかし同じ頃にできた戸籍には「華族」「士族」「平民」「新平民」の身分が残っていて一九六八年(なんと私が小学校一年生の時まで!)までは見ることでできたのです。

また明治になって、「家」意識が強くなります。「うちの家はあそことは違う」といった何ら理由のない意識が強くなったのです。人々の中に「生まれながらに違いがある」意識も残り続けたのではということでした。しかし、政府は差別をなくすための施策を何も行わなかったため差別は残り、助長されてきたのです。

(解放令:明治政府が出したこれまでの身分制度をなくすという法令)

部落差別をなくすためには

部落差別を生み出している今の社会の自分も一員であるといった意識をみんなが持ち、「たてまえ」ではなく自分の身に降りかかった時の問題としてとらえ、差別は自分の内側から出たものとして考えて学習していくことが大切だ。とおっしゃっていました。

東飯田地区人権学習講演会

9月22日(月)19時

東飯田公民館大ホール

演題「人権を学ぶことは、

自ら心豊かに生きること」

くだれの心にもある差別の芽

講師 佐藤 明郎さん

＊多くの方の参加をお待ちしています。